

【直前チェック】日商簿記検定3級仕訳問題

・現金

1. 現金の帳簿有高は¥50,000であり、実際有高は¥45,000であったので不一致の原因を調査することとした。
2. 上記①の調査の結果、水道光熱費¥3,000、受取手数料¥8,000の記帳もれが判明したが、残額は原因不明だったため、雑損または雑益として処理することとした。
3. 小口現金を管理する事務員から通信費¥20,000と消耗品費¥12,000の支払いの報告を受け、ただちに同額の小切手を振り出して小口現金の補給を行った（定額資金前渡法による）。

・受取手形と支払手形

4. A社に¥700,000を貸し付け、同額の約束手形を受け取った。なお、利息¥6,000を差し引いた残額につき小切手を振り出した。

・電子記録債権と債務

5. 当社は、B社に対する売掛金¥200,000について、電子債権記録機関に債権の発生記録の請求を行い、承諾された。

・固定資産

6. 20X3年5月1日に購入した備品（取得原価¥1,500,000、耐用年数5年、残存価額ゼロ、定額法により減価償却を行っている）が不要となったので、20X4年11月30日に¥500,000で売却し、代金は現金で受け取った。なお、当社の決算日は3月31日で、減価償却費については月割計算により、記帳方法は間接法によって行う。

・貸倒引当金

7. 得意先のB社が倒産したため、同社に対する売掛金¥28,000が貸倒れとなった。ただし、貸倒引当金勘定の残高が¥15,000ある。

・その他の債権と債務

8. 商品¥400,000 を売り上げ、代金のうち¥300,000 はC市が発行した商品券で、残額は小切手で受け取った。なお、商品売買の記帳は3分法によること。
9. 商品¥200,000 をクレジットカード販売によって売り上げた。なお、手数料は、販売代金の5%であり、信販会社に対する債権から差し引く。なお、商品売買の記帳は3分法によること。
10. 商品売買業を営むD社は、営業用自動車を¥2,000,000 で購入し、代金のうち¥800,000 は小切手を振り出して支払い、残額は月末払いとした。
11. 従業員に給料¥220,000 を支給するに際して、前貸ししてあった¥20,000、所得税の源泉徴収額¥10,000、従業員負担の社会保険料¥12,000 を差し引き、手取金を現金で支払った。
12. 社員が出張から戻り、旅費交通費の精算を行ったところ、概算額が少なく、不足分¥12,000 を現金で渡した。なお、旅費の概算額として¥35,000 を支払っていた。
13. 駐車場の賃貸借契約の終了に伴い、契約時に支払っていた敷金¥50,000のうち、日割り計算された本日までの未払いの地代¥20,000 が差し引かれた残金が当座預金口座に振り込まれた。

・配当

14. 株主総会において¥4,000,000 の配当を行う決議を行った。配当決議にともなって、配当金額の10%を利益準備金として計上する。

・税金

15. 中間申告を行い、法人税、住民税及び事業税¥200,000 を現金で納付した。

・消費税

16. 商品 ¥1,200,000 を仕入れ、代金は消費税とともに小切手を振り出して支払った。なお、消費税率は 10% とし、記帳方法は税抜方式により、商品売買の記帳方法は 3 分法による。
17. 商品 ¥2,000,000 を売り上げ、代金は消費税とともに掛けとした。なお、消費税率は 10% とし、記帳方法は税抜方式により、商品売買の記帳方法は 3 分法による。

・決算振り替え仕訳

決算にあたり、収益・費用の各勘定残高は下記の通りであった。

売	上	2,000,000	受取手数料	120,000	受取利息	20,000
仕	入	1,200,000	給料	500,000	消耗品費	80,000
支払地代	90,000		支払利息	10,000	雑費	40,000

以下の 18～20 までの仕訳を答えなさい。

18. 収益の各勘定残高を損益勘定に振り替える仕訳を行いなさい。
19. 費用の各勘定残高を損益勘定に振り替える仕訳を行いなさい。
20. 当期純利益（損失）を繰越利益剰余金勘定に振り替える仕訳を行いなさい。